

# 九州・雪の由布岳、英彦山を訪ねて

2016.12. 22夜発～25朝

<参加メンバー> 6人（男性3人、女性3人）

<アプローチ> 九州・大分港までは、神戸・六甲アイランド19時発の「さんふらわあ」の夜行船便  
現地ではマイカーで移動  
帰りは、大分港からまた「さんふらわあ」の夜行船便で神戸・六甲アイランドまで

<天候> 12/23・曇り後あられ、強風 12/24・曇り時々晴れ

\*\*\*\*\* コースタイム他 \*\*\*\*\*

## 12/23 鶴見岳、由布岳登山

由布岳登山口8:10、火男火売神社8:30、  
小休止9:53、鶴見岳ピーク10:50、  
小休止11:55、東登山口12:24、小休止13:24  
由布岳東峰15:15、由布岳正面登山口17:00  
宿舎のしゃくなげ荘（英彦山山麓）19:00着

## 12/24 英彦山登山

しゃくなげ荘8:20、銅の鳥居P8:38、  
奉幣殿9:00、中宮9:54、英彦山山頂10:42、  
英彦山ピーク（南岳）11:06、鬼杉12:38、  
玉屋神社13:36、銅の鳥居P14:30

## <山行の概要>

九州には名山が多い中で、マイナーなイメージはあるが日本200名山に名が上がっている由布岳と日本三彦山の一つ英彦山を今回は登ってきた。  
折からの寒波の襲来により、初日は強風の中、途中からはあられが降り出して、雪景色の中の雪中登山となった。由布岳手前の鶴見岳からは荒天の中ではあったが、少しの間雲が切れて大分湾のすばらしい展望が楽しめた。  
由布岳の東登山口からのコースは、頂上近くが岩場に鎖のある難所で、雪があるため難儀した。まったくもって熟練者コースであり、下山には使いたくないコースであった。下山に使った正面登山口コースは何ら危険のない東登山口とは対照的な穏やかなコースである。  
英彦山は、長い石の階段には閉口したが頂上近くの樹氷はとても美しかった。やはり山岳信仰、修験道の山らしい趣があり、鎖場などが一部にあった。樹齢1200年余の鬼杉は圧巻であった。足を運ぶには遠い山であるが行って良かった。

## 12/23 鶴見岳、由布岳の巻



1. 由布登山口(ここに車を止め、バスで鶴見岳登山口へと移動)



2. 鳥居前(鶴見岳登山口)に到着



3. 火男火売神社の鳥居 ここからスタート



4. 火男火売神社横を通過



5. 登山道の初めはこんな穏やかな感じ



6. 鶴見岳頂上 風強し、視界なし



7.頂上でパチリ ガスが一時晴れて大分湾が見えた。



8.この分岐から由布岳へと向かう



9.雪がうっすらと積もった道を進む



10.素敵な樹林の中の分岐を由布岳へ



11.峠の由布岳東登山口に到着



12. 登山口の案内図



13.一面真っ白な登山道を頂上へと目指す



14.頂上近くのやらしい岩場をよじ登る雪がついていた難儀した



15.頂上手前の稜線の美しい樹氷 寒くてゆっくり楽しむ余裕はなかったが



16.やっと由布岳頂上に到着



17.集合してパチリ アイゼンを装着して、寒いのでそそくさと下山を開始する。



18.雪と岩のミックスの中をどンドン下る。



19.タイムアウトで西峰には行かずに正面登山口へと向かう。



20.振り向くと上部の樹氷がとてもきれいだった。



21.遠くから見ると由布岳はこんな美しい山。東登山口からのコースは、雪が付くとなかなかの難路であった。

# 12/24 英彦山の巻



1. スタートはここ別所駐車場から



2. 最初は車道歩きで登山口へ向かう



3. 長い石段の始まりである



4. 奉幣殿に到着



5. 途中でちょっと休憩



6. 石段の先に中津宮が



7. なな、なんだコレは！



8. 頂上近し



9. 美しい樹氷が迎えてくれる



10. なんときれいなんだろう！



11. 英彦山頂上に到着



12. ナント、頂上にサンタクロースが...



13. 頂上でパチリ



14. 下山開始



15. 美しい樹氷の自然美の中を歩く



16.先程いた頂上の上宮



17.南岳の三角点



18.ここでは全員集合でパチリ



19.さらに下っていく



20.修験道の山らしく鎖場が続く



21.鬼杉への分岐でしばし休憩



22. 樹齢1200年余の鬼杉



23.鬼杉の解説板



24.大岩壁にへばりついた玉屋神社



25.玉屋神社の別の社



26.再び奉幣殿に戻り、英彦山登山終了。  
周回コースで元のところに戻ってきたがガイドブックよりも随分と時間がかかった。とにかく樹氷が美しかった。